

KONTECHS TIMES

COMPANY NEWSLETTER 株式会社コンテックス



ZOHO 導入支援の 新しいLバナーが 届きました。



ニュースレター限定 社長コラム

『事業のしくみ化をもっと意識する』

代表取締役 近藤 千奈美

あっというまに3月。春が一気にやってくる季節ですね。

「コロナ感染症と共存」は事実という前提で、春になればあらゆるビジネスが加速してくるでしょう。

弊社も稚拙ながら、事業のやり方を少しずつ変えてきています。成果が出ていることはそのまま継続して磨いていく。成果が出ていないことはやり方を変える、ダメならやめる。チャレンジしながら常に検証をしなければなりません。

あらゆる事業には人が必ず関わります。事業の成長と直結するのは人の成長だと確信しています。そして、人は勝手に成長するものではなく、環境としくみがあってこそ成長できるのだという考えを強くしました。

本質的な部分を掘り下げながら、お客様目線で自社の強みを強化できるしくみを地道に、具体的に、試行錯誤を重ねて形にしていけます。

プロによる
動画翻訳!

自社動画を世界へ 情報発信は動画時代! 感情に訴えやすい! 音声で伝わりやすい

👍 こんな場面でご活用いただけます!



教えて!

翻訳Q&A!

Q: 昔々、中学校で"must (～しなければならない)"は"have to"に書き換えられると習った記憶がありますが、本当に同じ意味なのでしょうか?

A: 表現のニュアンスはそれぞれ違いますので、完全に同じではありません。

例えば、誰かと会っている時「もう家に帰らなくちゃ」と言いたい場合 "I **must** go home" と "I **have to** go home" のどちらを使うのがいいのでしょうか。

"**must**"を使うと「(私は) 何がなんでも帰らなければならないと思っている」と**主観的な意見**を述べることになります。

"**must**" は**強い指示や規則を表す**場合によく使われ、強制的なニュアンスが含まれ、言われた側に反感を持たれる可能性がある注意すべき表現です。

"**have to**"を使うと、「**外的な要因でやらなければいけない**」という意味になります。

つまり、ここに**自分の意見は入っていません**。

というわけで"I have to go home"の方が人間関係に支障をきたすことが少ない表現なので、通常はこちらを使うほうが適切と言えるでしょう。

こうした意味の違いが分かると、"**must not**"が「**～してはいけない**」、"**don't have to**"が「**～する必要が無い**」の意味となることがお分かりいただけると思います。

HP にバックナンバーが掲載されています♪

『久しぶりの球場』



技術者の呟き

エンジニアリング事業部・佐藤

先月、講習を受講するために関内に行きました。初日は早めに現地に到着し、開場まで時間があったためハマスタ（横浜スタジアム）に行ってみました。東京オリンピックのため改修されたハマスタはちょっと小綺麗になっていて、時の流れを感じました。

去年ここで行われたサムライジャパンの胴上げをテレビで観た方も多いのではないのでしょうか。

今年の秋は矢野監督の胴上げが観れば最高ですね。プロ野球好きの方ならもうお気づきだと思います。私は **タイガースファン** です。

退路を断った矢野監督の思いにチームが答えて、今年こそは悲願の優勝を勝ち取ることができると信じながら、球場から立ち去りました。



社員の呟き

社長戦略室・芝崎



『記念旅行』

昨年結婚 25 周年を記念して、旅行を計画していました。コロナがなかなか収束せず、オミクロン株がでてくる前の 11 月中旬に、やっと行く事ができました。

記念旅行という事で、JTB の担当者もとても頑張ってくれたお陰で、最後の一枚だったチケットも獲得してくれ、希望を全て叶えてくれました。そんな旅行前のエピソードも含めて、楽しい旅の思い出を作ってくれた担当者に感謝しています。そして私自身も、仕事でこの担当者のような存在でありたいと心から思いました。

ニュースレター限定

営業マンのコラム

『動画の時代』

コンテンツサービス事業部 後藤 (Mr.ベースマン)



私の世代が新人類と呼ばれていたころ、学生の文字離れが社会問題として取り上げられていました。本を読まずに漫画を読んでいる、けしからん！ということです。しかし、漫画文化はそのままアニメ文化となり、世界に広がっています。

最近では日本のアニメで日本語を覚えたという留学生や研修生が多くみられるようです。確かにアニメは声優の発音なので聞き取りやすいと思います。

以前 HP のブログでも書きましたが、最初にプロローグを解説する作品が増えているようで、簡潔な表現も覚えられる仕組みですね。

現在は文字離れが加速しており、実際私自身も楽器関連の調べものや、パソコンの不具合解決方法は、画像で解説している YouTube のものを参照します。確かに、目から入るイメージは言葉より直接的に伝わります。

「百聞は一見に如かず」よりも、バーチャルの時代は実際にその場所へ行ったような気持になる映像とイメージで伝達できる。バーチャルリアリティまではいかずとも、動画で商品をアピールしたり、出張して技術者研修を行う代わりに動画で海外対応にする、など動画の多様な利用方法がこれからますます増えていくのではないのでしょうか？

コンテックス HP

下記 QR コードまたは
『技術翻訳
コンテックス』で検索！



技術翻訳と機械エンジニアリング、技術者派遣はコンテックス

株式会社コンテックス

Phone : 042-744-1080

e-mail : tsd@kontecs.com

URL : <http://www.kontecs.com>